

高みを目指そう！

石丸監督インタビュー & 新スローガン『Aim High!』

石丸清隆監督インタビュー

大阪府交野市^{かたのし}1973年生まれ、52歳。出身地の中宮JSCでサッカーを始め、中高時代は6年間クラブチームの^{ひらかた}枚方FCでミッドフィルダーとしてプレーした。大学は阪南大学サッカー部に進んだ。1995年大学4年生の時に2年に1度の夏季ユニバーシアードサッカー大会が福岡で開催され、日本代表チームとして出場し、この第18回大会で日本として初優勝を勝ち取れたことは非常に嬉しかった。

1993年にJリーグが立ち上がっていたが、当初はプレーに夢中で、いくつかのチームからのオファーに余り関心がなかった。だが早い時期からオファーを貰っていたアビスパ福岡からのお誘いが一番気持ちが伝わり加入を決意した。

その後アビスパ福岡で5年、京都パープルサンガで5年半、愛媛FCで1年2ヶ月のプロ生活の後に、プロチームの指導者の道に進むことに決意した。

2007年FC愛媛でコーチを3年、ユースチームの監督を3年した後、2013年からトップチームの監督を2年間務めた。2015年からJ2の京都サンガのトップチームのヘッドコーチで半年を経て監督に就任した後、その年のJ1昇格プレーオフ準決勝で敗れて、2017年から松本山雅FCのトップチームの^{そりまち}反町監督の元でコーチを3年間務めた。この3年間の初年度は反町流のサッカーマネジメントを学びのちに厳しい日々であったが、2018年にはJ2優勝J1昇格の大きな体験と収穫を得て、それらの経験からその後の自分流を磨く原点になったと感謝している。2020年モンテディオ山形で監督を1年半の後、2022年から愛媛FCで監督、2023年にはJ3で優勝しJ2昇格を達成した。

その昇格経験を生かして、昨年7月からJ3リーグ18位のFC岐阜の強いチーム造りと昇格を目指すよう監督に就任しました。

昨年7月12日第20節ヴァンラーレ八戸戦が石丸監督のFC岐阜での第一戦だった。チームメンバーの実力や個性、チームとして何が問題なのかを把握することに終始追われて1対5の完敗に終わった。

ファン目線ではシーズン中盤を過ぎた段階での得失点差マイナス4の大打撃も、石丸監督目線では残り18試合で如何に早く立て直せるかが課題の中で、この試合結果でチームの取り組むべきことは決まった。一人ひとりがより強い責任感と主体性を持って取り組むことの重要性を再認識し、これ無くしては個とチームの成長は有り得ないと、以後徹底して指導した。また各自が更なる練習で自ら課題を克服して一体感を掴もうと指示した。その最中にミニキャンプを実施出来たことは、選手達各自が課題克服に役立ったと思いました。また、市長の皆様や知事からの様々な観点からの激励講話も大変有意義だったと一同感謝しています。

8月30日の第25節FC琉球戦で初勝利するまでは、勝ち無し、2引き分け、3敗の5試合であったが、ようやく一体感のあるチームプレーが出来るようになりJリーグ参入後クラブ初の7連勝となった。

今シーズンから石丸監督の元に、上野ヘッドコーチ、吉田コーチ、皆が同年の中で役割分担と十分な意見交換の元に最強のFC岐阜を目指して一体で準備して戦って参ります。

スローガンは“Aim High”2026シーズンも共に戦いましょう！絶大なる応援を何卒よろしくお願い申し上げます。